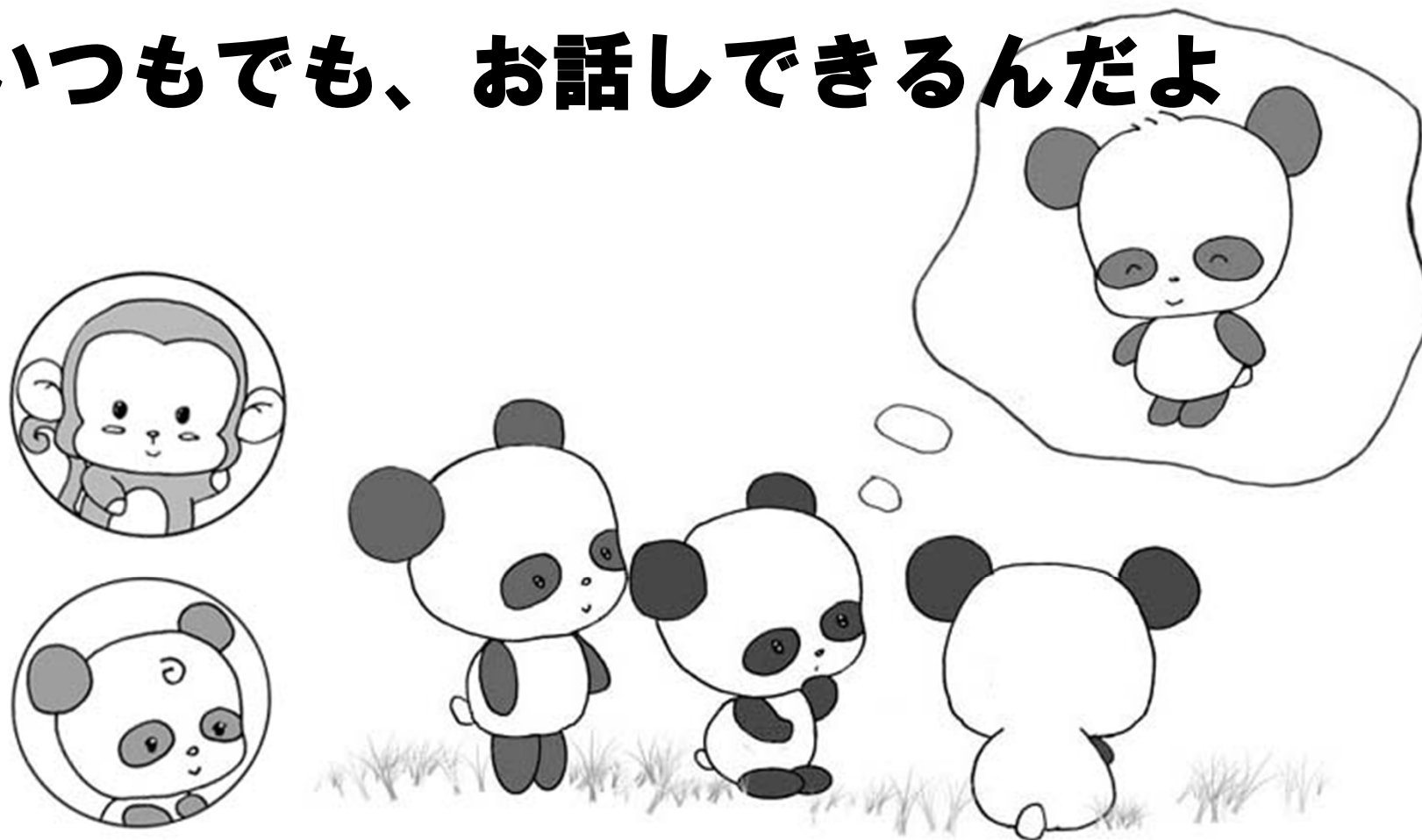


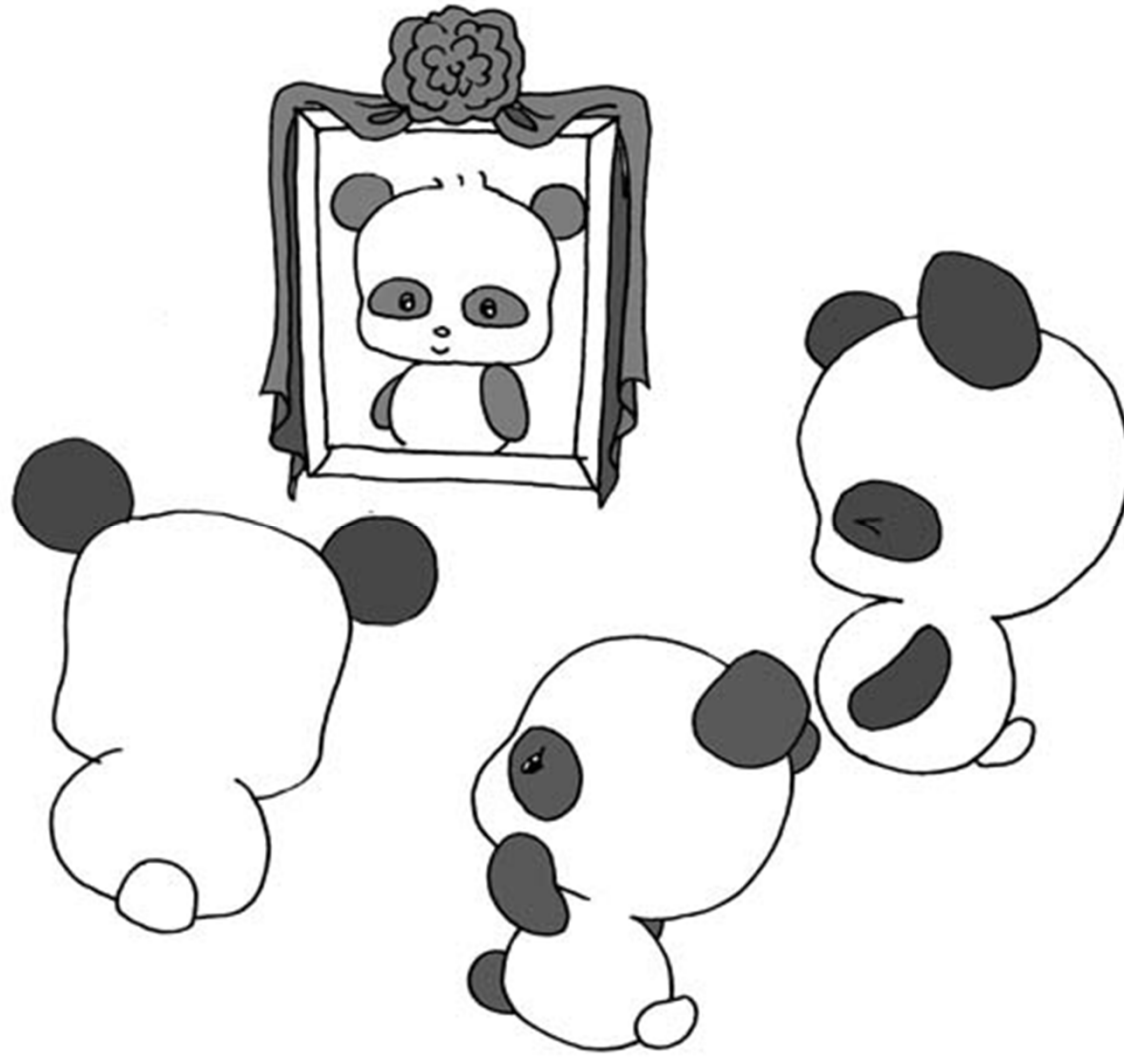
パンダの悲しみ

いつでも、お話しできるんだよ

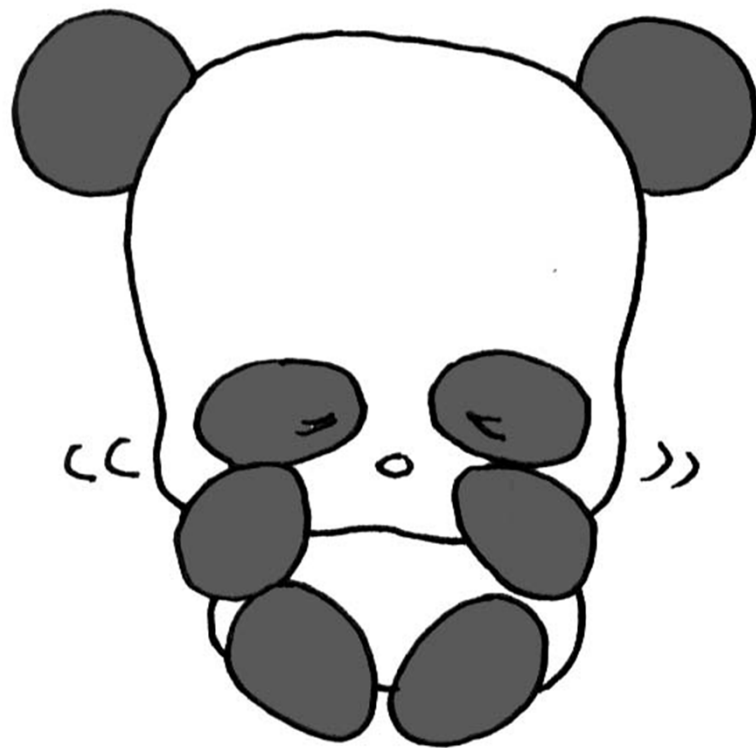


登場する動物たち;パンダファミリー;毛毛、蘭蘭、煌煌、民民 おさるのウッキー君、毛毛の友だちの冨ちゃん

制作:富永良喜 绘画:陈娟



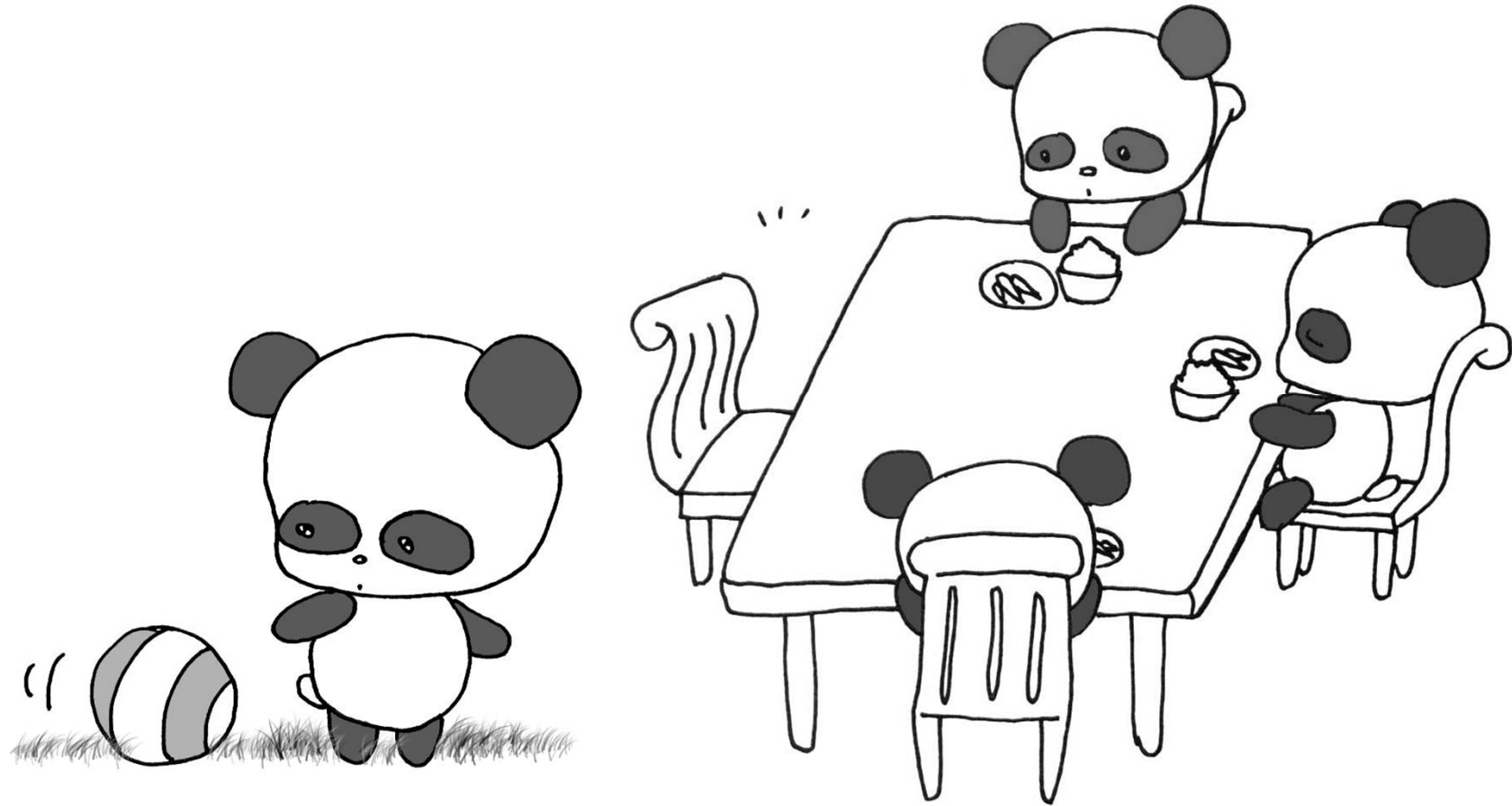
毛毛、なんで、写真なの！



なにも感じない。なにも考えられない。
ほんとうのことじゃないよね。
だって、毛毛、みえたもん。

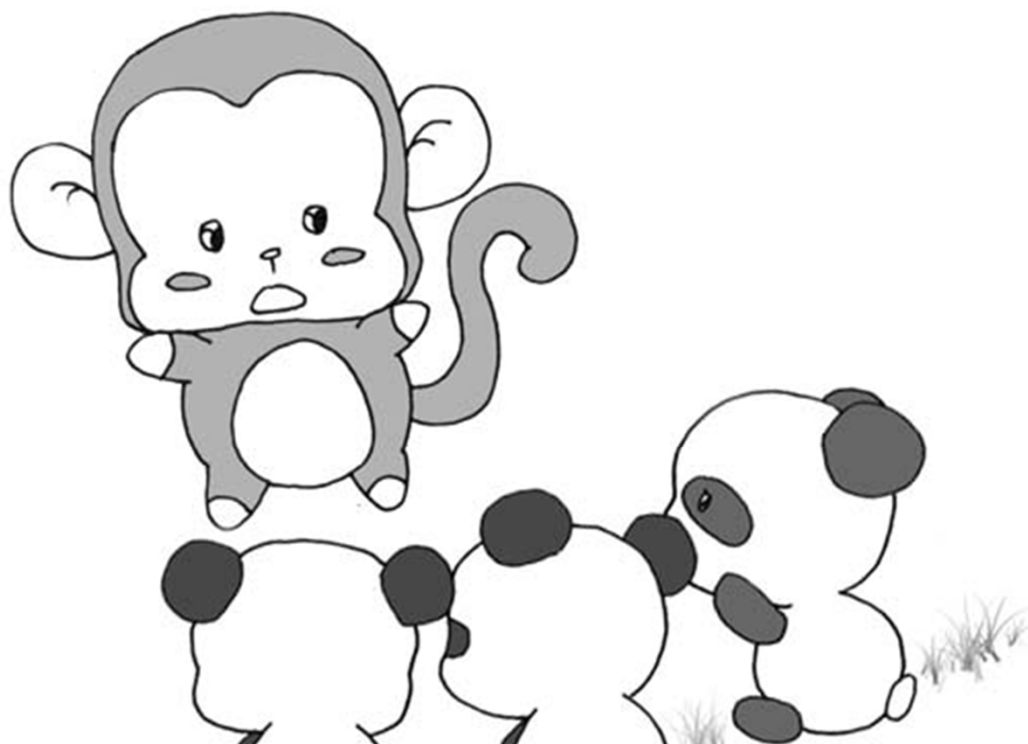


なにも食べたくない。
夜なかなか眠れない。
勉強していても、毛毛のことが、
頭に浮かんでくる。あの日のことが浮かんでくる。



遊んでいるとき、食事をするとき、勉強するとき、
「ここにいるよ」と思っても、やっぱりいない。

心のなかは、つらいきもちが、いっぱい、いっぱい
になっていく。。。。。

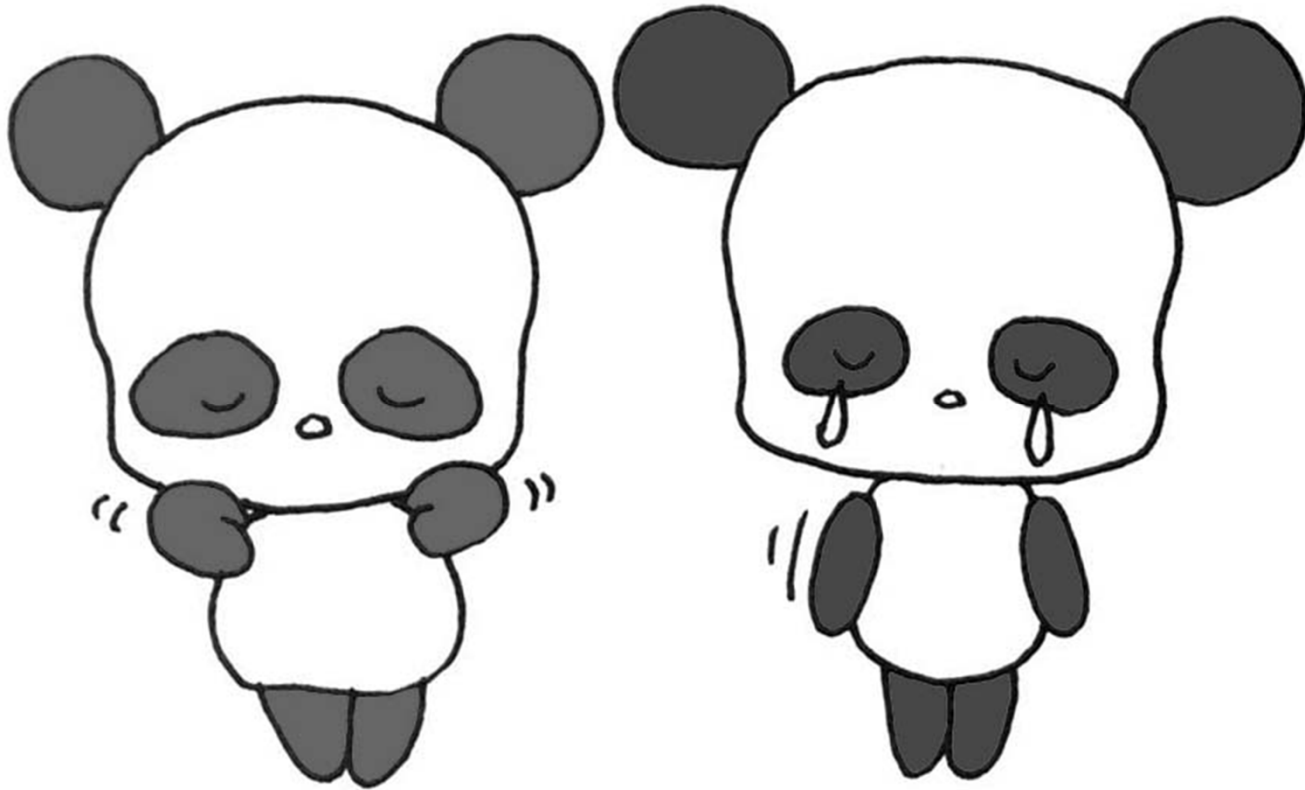


そんなある日、うっきー君が、やってきました。うっきー君も、3年前に、とっても辛いことがあったのです。そして、うっきー君は、パンダファミリーにお話してあげました。

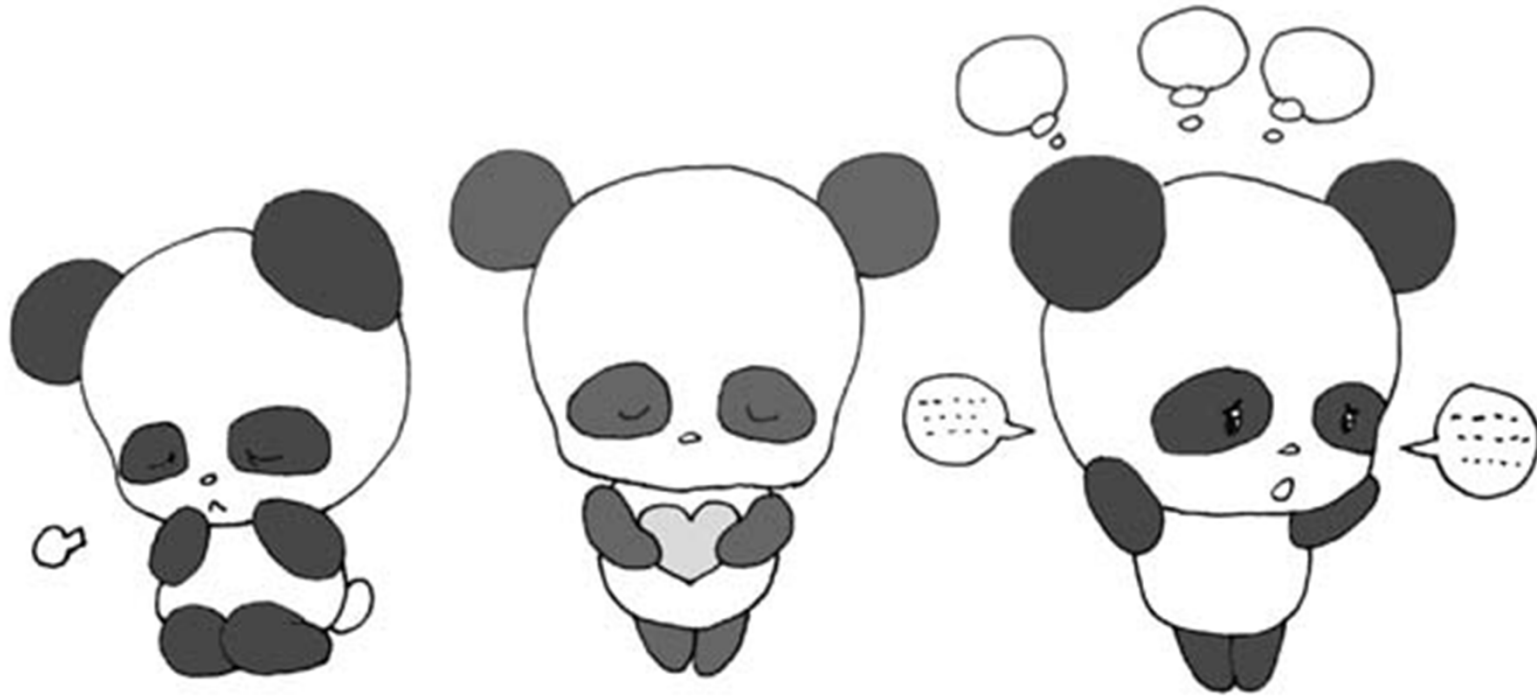
「とっても、信じられないって思うのは自然だよ。

心が凍りついて、なにも感じられないんだ。それから、毎日のいろんな時に、思いたして、つらくなるんだ。でも『辛い』って感じられるようになったのは、前に、すすんでいることなんだよ。

そんな時は、『泣かないでがんばろう』なんて、思わないでね。思い切り泣いたらいいんだよ。」



「深呼吸や肩にいちど力をいれて、ふわーと力をぬくんだ。すると、むりにがんばってきた心がやわらかくなって、涙がいっぱいあふれてくるかもしれないよ。」

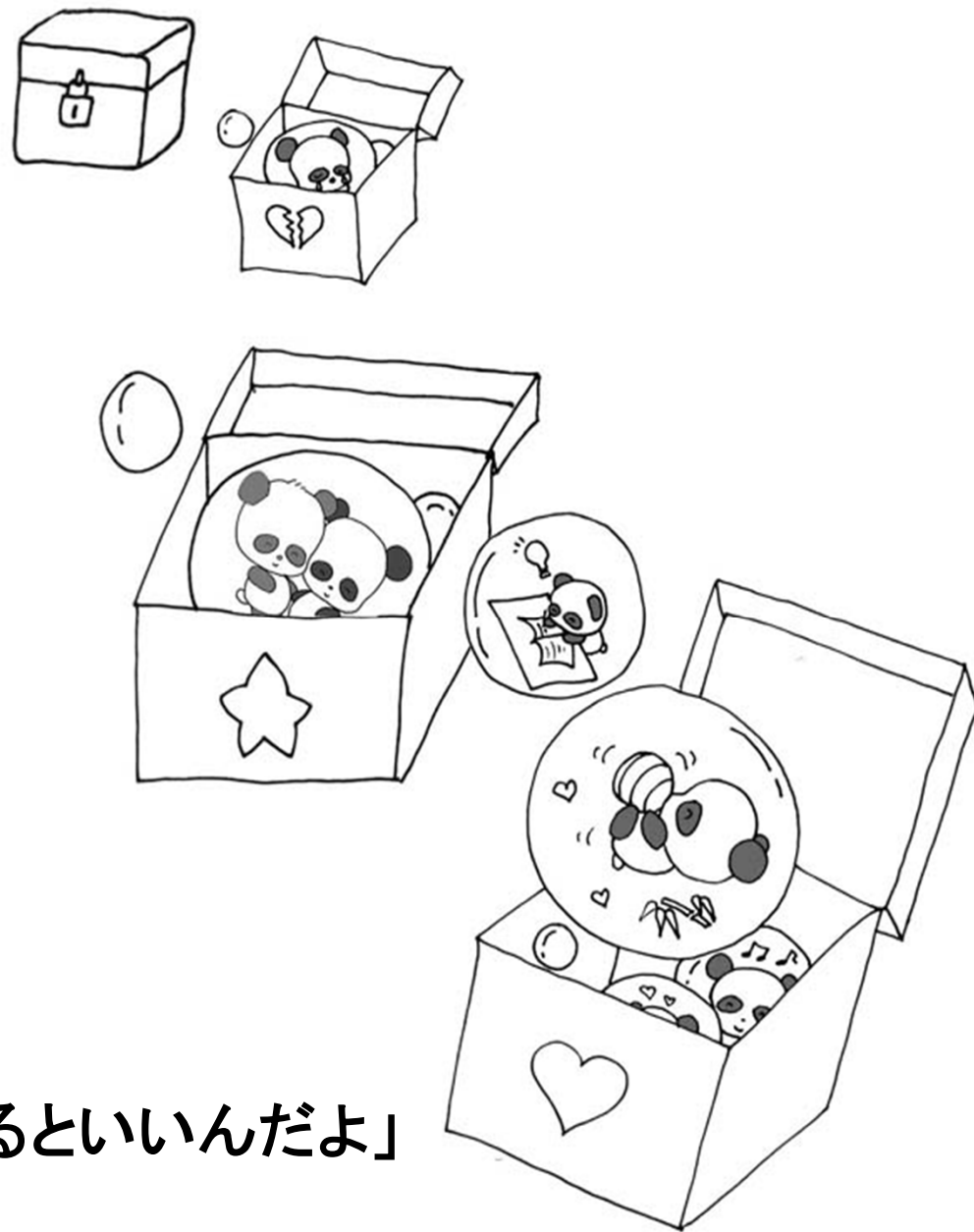


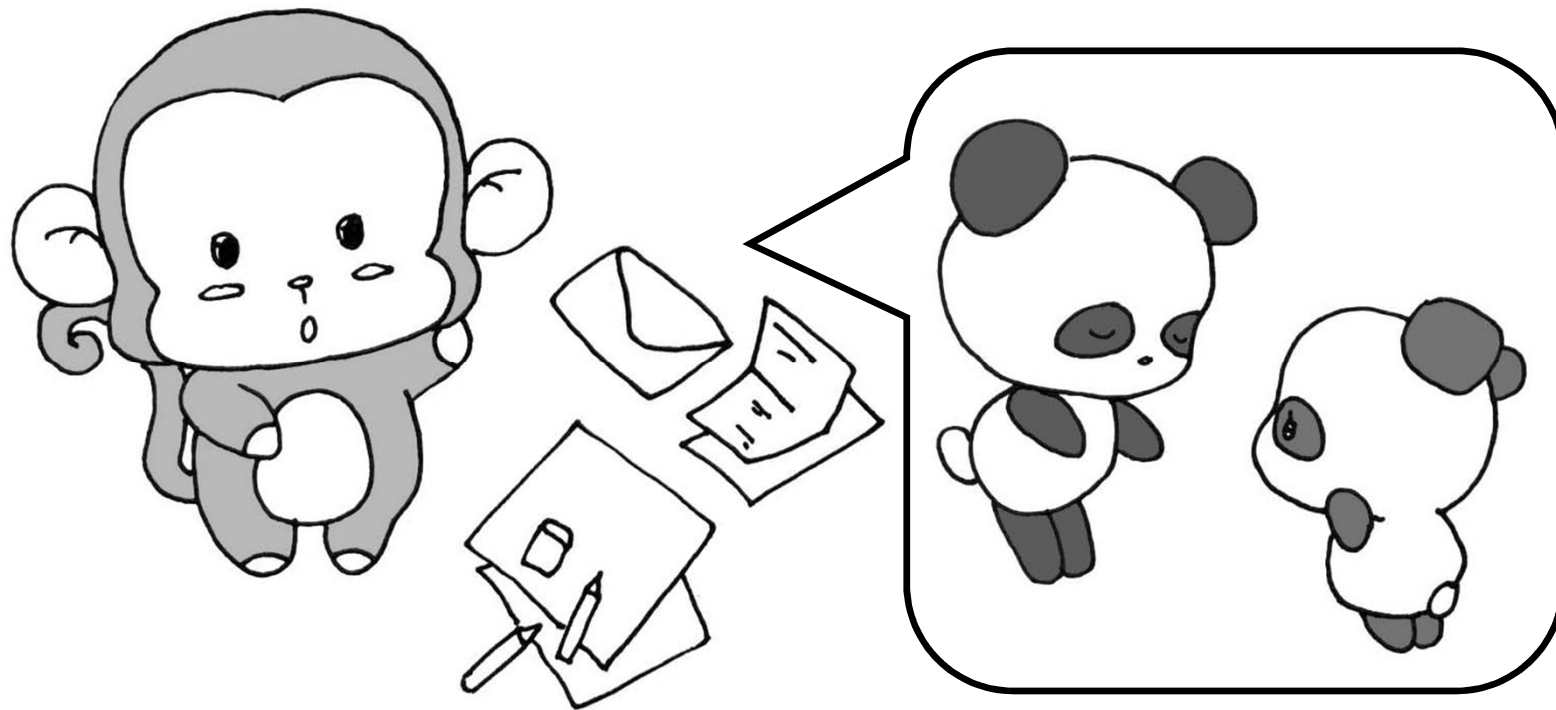
「それからね、おなじ家族なのに、ちがった心の変化がおこることがあるよ。
煌煌は『もうそのことは聞きたくない!』、
でも民民は『いっぱい思いがあふれてきて、誰か聞いて!』って。
でも、それは、悲しみのあらわれ方が、人によってちがうからだよ。「凍りついた
心」のせいなんだよ。だから、「わかりあえない」って
思わないでね。

「心の箱をうかべてもいいよ」
「悲しみの箱」
「毛毛との楽しい思い出が
つまった箱」

「蘭蘭も、煌煌も、民民も、
楽しむときは楽しんでいいんだ
よ」
「自分が勉強に遊びにがん
ばっている・楽しんでいる箱も
あるよね」

「悲しむときと、
楽しむときを、
きりわけていけるようになるといいんだよ」





「毛毛に、お手紙をかいてもいいよ。絵を描いてもいいよ。

自分が困ったとき、『どうしたらいいのかな？』って聞いてみるでもいいと思うよ。

きっと、お話できるようになるよ。」



毛毛のお友だちから届いた手紙。

ひとつずつ読んでいくうちに、涙がいっぱいでてきた。
。あの日から、泣いていないことに、気づいた。

涙があふれて、大きな声をあげて泣いた。

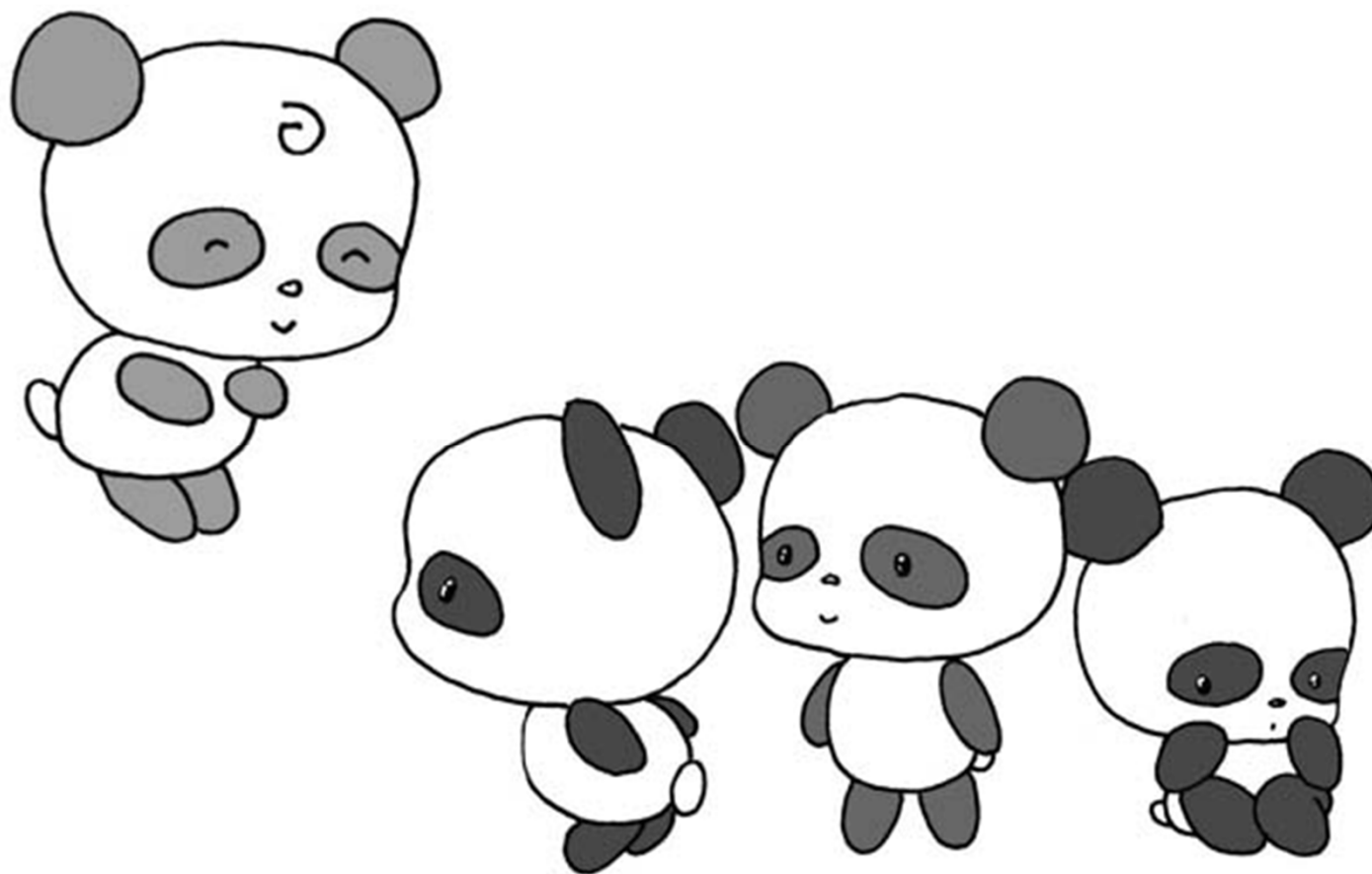
泣いた後は、少し元気がわいてきた。



「前向きに生きよう！と思える日もあれば、悲しみやさびしさに押しつぶされそうになる日もあるよ。」

「押しつぶされそうになったとき、

『深くながく悲しいということは、それだけ毛毛と深く心がつながっていることなんだよ』ということをお願いしてね。」



ある日、友だちの 富ちゃんが、「困ったときは、毛毛とお話し、ここに来るんだ」といってくれた。



「悲しいきもちは、時間がたっても、ちっとも小さくならないかもしれないよ。

でも、いつでも、お話できるようになると、眠れるようになるよ、勉強がんばれるようになるよ、楽しく遊べるようになるよ。

そして、悲しみがエネルギーになっていくんだよ。毛毛が、いつもおうえんしてくれているんだ。だから科学、芸術、スポーツに、すごい力がわいてくるんだよ。」